

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08seisan/04_jyouhou/0403seiiku/seiiku.html

第 3 報
千葉県農林水産部
平成 21 年 6 月 26 日

- いもち病に注意しよう
- 「コシヒカリ」の幼穂を確認しよう
- 出穂前 3 週間～出穂後 2 週間は湛水管理

[生育概況]

梅雨入り前後の一時期を除いて田植えから高温に推移しており、生育は早めに進んでいます。「ふさおとめ」「ふさこがね」の生育は、平年に比べて 3 日程度早く、4 月 20 日植えの「ふさおとめ」は、6 月 17 日、「ふさこがね」は 6 月 19 日に幼穂形成期となり、冷害危険期を迎えていますので、低温に注意しましょう。

「コシヒカリ」では、平年並みからやや早い生育で、草丈はやや高く推移していますが、葉色はさめてきていますので、幼穂形成期を確認して、適期の穂肥に備えましょう。

農林総合研究センターの 6 月 22 日付け病害虫発生情報では「いもち病の多発生に注意」を呼びかけています。ほ場をよく見回って、早期発見・適期防除に努めましょう。

表 1 品種別の生育状況 (6 月 25 日現在)

品種	植付時期	平年遅速	平年比		
			草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4 月 20 日頃	やや早	並	やや少	並
ふさこがね	4 月 20 日頃	やや早	並	並	並
コシヒカリ	4 月 20 日頃	やや早	やや高	並	並
	5 月 1 日頃	やや早	やや高	並	並

※ 平年比は過去 5 年 (2004～2008 年) 平均値との比較、ただし「ふさこがね」は過去 3～4 年 (2006～2008 年) 平均との比較です。

表 2 「ふさおとめ」と「ふさこがね」の冷害危険期

品種	植付時期	冷害危険期予測(月日)
ふさおとめ	4 月 20 日	6 月 27 日頃
ふさこがね	4 月 20 日	6 月 29 日頃

※ 「ふさおとめ」は日平均気温に基づく発育段階予測結果、「ふさこがね」は幼穂長の実測値及び葉令等からの推定値による。

表 3 「コシヒカリ」の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測 (月日)				冷害危険期予測 (月日)
		県北	九十九里	内湾	県南	
コシヒカリ	4 月 20 日	6 月 30 日	6 月 28 日	6 月 26 日	6 月 24 日	7 月 4 日頃
	5 月 1 日	7 月 2 日	7 月 1 日	6 月 30 日	6 月 30 日	7 月 9 日頃

※ 日平均気温に基づく発育段階予測結果

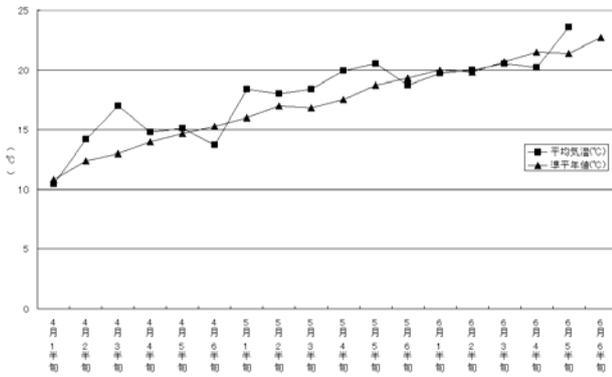


図 1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

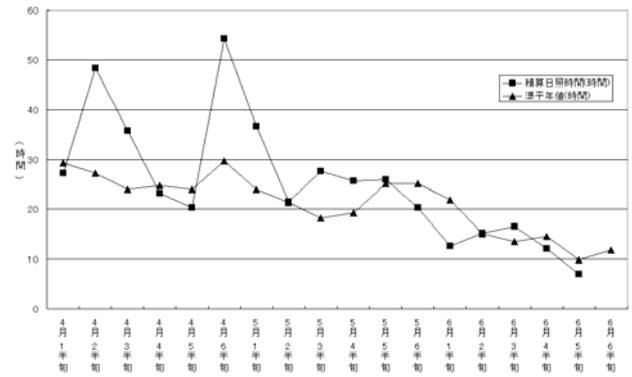


図 2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■ いもち病の防除

いもち病に注意が必要です。平均気温 20~25°C で弱い連続した降雨のあるときに感染しやすい条件です。葉いもち予防の粒剤は、発生する前に散布する必要があります。葉に病斑が多数見られるほ場では、予防効果と治療効果を兼ね備えた薬剤を直ちに散布しましょう。治療効果のある薬剤は、発生確認後の早い段階の防除で高い効果が期待できます。ほ場をよく見回って、早期発見に努めましょう。

薬剤は6ページの表 9を参照してください。

■ 「コシヒカリ」の管理

○ 幼穂を確認して適期穂肥に備えよう

「コシヒカリ」は「ふさおとめ」や「ふさこがね」と比べて倒伏しやすいので、穂肥の施用は慎重にしましょう。葉色、莖数、及び草丈から総合的に診断します。診断方法は表 4を参照してください。

表 4 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色 (SPAD 値) ×莖数/m ²	草丈 (cm)	予測される生育・収量	対策
16,000 以下	70cm 未満	倒伏は避けられるが、籾数が不足しやや減収となる。	穂肥の増量。又は時期を2~3日早める。
16,000 ~20,000	70~80cm	穂肥施用により目標どおりの生育が期待できる。	出穂前18日に、標準量の穂肥を施用する。
	70~80cm	穂肥施用による籾数確保は必要だが、穂肥施用によって稈長が伸び、倒伏が心配される。	穂肥と倒伏軽減剤とを組み合わせる。
20,000 ~27,000	75cm 未満	穂肥施用による倒伏の心配は少ないが、籾数過剰となり、乳白米の発生が心配される。	穂肥の施用量を減らす(窒素施用量 1~2kg/10a)か、時期を遅らせる。
	75~82cm	穂肥施用により籾数過剰となる。穂肥を施用しなくても稈長が伸び過ぎて倒伏が心配される。	穂肥は施用せず、倒伏軽減剤のみ施用する。

表 5 幼穂形成期の生育目標

草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)	葉色 (カラースケール値)
70 以下	430~560	3.5~4.0

表 6 主な倒伏軽減剤

薬剤名	使用時期/使用回数	10a 当たり散布量	処理方法
ロミカ粒剤	出穂 25~10 日前まで/1 回	2~3kg	湛水散布
スマレクト粒剤	出穂 20~7 日前/1 回	2~3kg	湛水散布
ビビフルフロアブル	出穂 10~2 日前/1 回	75~100ml	莖葉散布

穂肥の適期を判断するためには、幼穂を確認するのが一番です。

幼穂形成期は幼穂長 1mm (出穂 25 日前) の株が全体の 8 割に達した時点です。ここから数日でお穂 3 週間前 (湛水管理開始期) になります。

穂肥の適期は幼穂長 10mm (出穂 18 日前) です。

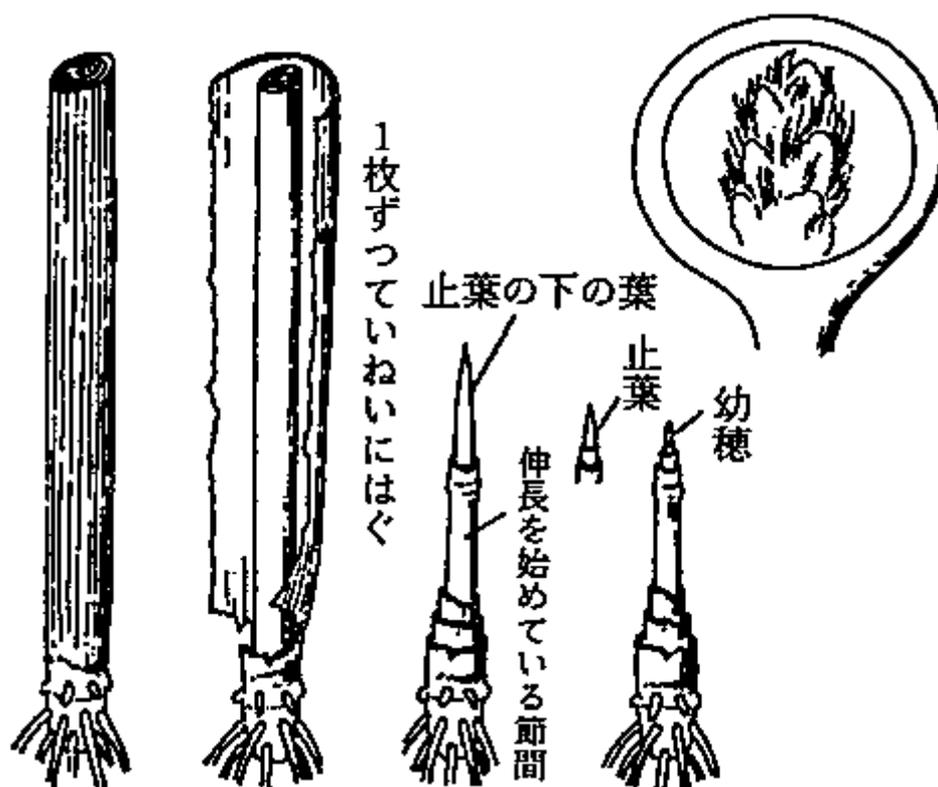


図 3 幼穂の確認方法

○ 幼穂形成期に入ったら湛水管理

幼穂形成期に入ったら、自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために湛水しましょう。

■ 「ふさおとめ」の管理

○ 湛水管理を徹底しよう

「ふさおとめ」は既に出穂まで 3 週間以内になっています。自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために湛水しましょう。

■ 「ふさこがね」の管理

○ 穂肥適期を再確認しよう

4月20日植えの「ふさこがね」は6月25日頃から穂肥適期（出穂18日前、幼穂長10mm）を迎えます。早過ぎる穂肥は籾数の過多をもたらす、1籾当たりの栄養分が不足したり、成熟期をばらつかせたりして品質を低下させやすくなります。また遅い穂肥は食味低下の原因となります。必ず幼穂を確認して穂肥適期を確認しましょう。

施肥量は、窒素・加里を10a当たり成分量で各3kgです。

表7 「ふさこがね」穂肥施用の目安（幼穂形成期）

草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色(カラスケール値)
60~65以下	450~550(25~30)	5.0

※ 茎数の () 内は30cm×18cmで植え付けされた時の1株平均茎数

○ 幼穂形成期に入ったら湛水管理

幼穂形成期に入ったら、自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために湛水しましょう。

■ 水管理の原則

○ 中干しから出穂後までの水管理

自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために、基本的な中干しの他に③を行うことが有効です。「安全・安心」な米作りのために対策を励行しましょう。

※食品衛生法のコメ規格基準の見直しに伴い、今年度中にカドミウムの残留基準が

1.0ppmから0.4ppmに引下げられる見込み

- ① 中干しは強過ぎないように、土が湿って足跡が残る程度
- ② 中干しから出穂3週間前までは間断かんがい
- ③ 出穂前3週間～出穂後2週間は湛水管理
- ④ 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

○ 低温時には湛水

幼穂形成期以降に平均気温20℃以下の低温持続が予想されるときは、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。

表8 低温時湛水深の目安

幼穂形成期（出穂25日前）から冷害危険期（出穂15～10日前）	湛水深10cm程度
冷害危険期（出穂15～10日前）	湛水深20cm程度

■ 稲こうじ病の防除

幼穂分化期～穂ばらみ期に降雨が多くて気温が低い年に発生が多くなります。

出穂前が防除時期です。前年度に多発したほ場では6ページの表10を参照して薬剤防除しましょう。

■ 出穂 2 週間前までの雑草防除

出穂直前の畦畔雑草はカメムシ類の生息場所となるので、出穂2週間前頃までに畦畔雑草を刈り取りましょう。

■ 農薬の飛散防止

農薬の散布に当たっては、周辺への飛散を防止するため次に示す事項に注意しましょう。

- 風の弱いときに風向きに注意して散布する
- 散布の方向や位置に注意する
- ドリフト低減ノズルなど適切なノズルを用い、適正な圧力で散布する
- 適正な散布量で散布する
- タンクやホースの洗浄を徹底する
- 近接する住宅や作物の生産者等と連携する
- 緩衝地帯を設ける
- 遮蔽物を設ける
- 飛散しにくい農薬や剤型を選ぶ



図 4 ふさこがね 6月26日 千葉市緑区刈田子町

表 9 いもち病の主な防除薬剤

作用性	薬剤名	使用時期／使用回数	使用時期／使用回数の注記	10a 当たり散布量
予防	オリゼメート粒剤	右記／2 回まで	葉いもちには初発 10 日前から初発時に、穂いもちには出穂 3～4 週間前（ただし、収穫 14 日前まで）に散布	3～4kg
	キタジン P 粒剤	右記／2 回まで	葉いもちには初発 7 日前から初発時に、穂いもちには出穂 7～20 日前に散布	3～5kg
	コラトップ粒剤 5	右記／2 回まで	葉いもちには初発 10 日前から初発時に、穂いもちには出穂 30～5 日前に散布	3～4kg
	// ジャンボ	右記／2 回まで	葉いもちには初発 20 日前から初発時に、穂いもちには出穂 30～5 日前に散布	10～13 個
	ブイゲット粒剤	収穫 45 日前まで／2 回まで	葉いもちには初発 20～7 日前に散布	3kg
	フジワン粒剤	収穫 30 日前まで／1 回まで	葉いもちには初発 10～7 日前に、穂いもちには出穂 30～10 日前に散布	3～5kg
	ラブサイド粉剤 DL	収穫 7 日前まで／右記	6 回以内（ただし、穂ばらみ期以降は 4 回以内）	3～4kg
予防・治療	イモチエース粒剤	収穫 35 日前まで／1 回まで		3kg
	カスラブサイド粉剤 DL	収穫 14 日前まで／右記	5 回以内（ただし、穂ばらみ期以降は 4 回以内）	3～4kg
	ヒノザン 粉剤 25DL	収穫 21 日前まで／3 回まで		3～4kg
	// 乳剤 30 1,000 倍液	収穫 21 日前まで／3 回まで		100～120 リットル
	ブラシン 粉剤 DL	収穫 21 日前まで／2 回まで		3～4kg
	// フロアブル 1,000 倍液	収穫 21 日前まで／2 回まで		100～120 リットル
治療	カスミン 粉剤 DL	収穫 14 日前まで／5 回まで		3～4kg
	// 液剤 1,000 倍液	収穫 14 日前まで／5 回まで		100～120 リットル

表 10 稲こうじ病の主な防除薬剤

薬剤名	使用時期／使用回数	10a 当たり散布量
モンガリット粒剤	収穫 45 日前まで／2 回まで	3～4kg
ブラシンフロアブル 1,000 倍液	収穫 21 日前まで／2 回まで	120～150 リットル
ブラシン粉剤 DL	収穫 21 日前まで／2 回まで	4kg
ラテラ粉剤 DL	収穫 14 日前まで／3 回まで	3～4kg
撒粉ボルドー DL	出穂 10 日前まで／－	3～4kg
Z ボルドー粉剤 DL	出穂 10 日前まで／－	3～4kg

※ モンガリット粒剤は出穂 3～2 週間前に、必ず湛水した水田に処理し、その後 7 日間は止水する。